

第1回京都市文化財学習研修施設指定管理者選定委員会（摘録）

1 開催日時

平成30年7月20日（金）午後1時30分から午後3時まで

2 会場

京都市考古資料館3階会議室

3 出席者

委員：小辻映里，下坂守，杉原和雄，山田陽子，吉田高子

4 傍聴者

4名

1 委員長及び副委員長の選出について

委員長に杉原委員，副委員長に下坂委員が選出される。

2 指定管理者の選定方法について

<委員長>

選定方法を審議するに当たっては，対象となる施設の概要や業務内容を知っておく必要があるため，事務局から説明をお願いする。

<事務局>

京都市考古資料館（以下「考古資料館」）と京都市文化財建造物保存技術研修センター（以下「研修センター」）の施設の概要・業務内容を配布資料や施設パンフレット等を用いて説明する。

<委員長>

次に選定方法について，事務局から説明をお願いする。

<事務局>

公募により指定管理者を選定することが原則ではあるが，公募を行わないことに合理的な理由がある場合は非公募とできる旨を説明し，本市としては，考古資料館については非公募とし，公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所（以下「埋文研」）を選定し，研修センターについては，公募を行わないことに合理的な理由があるとは考えられないため，公募により選定を行いたい考えを説明。

< 委員長 >

事務局からの説明を受け，質問や意見はあるか。

< 委員 >

埋文研の財務状況について，京都市が出えんした土地は埋文研の敷地以外にもあるのか。

< 事務局 >

下鳥羽収蔵庫の土地，伏見収蔵庫の土地も出えんした。

< 委員長 >

他に意見がなければ，考古資料館については非公募，研修センターについては公募ということで進めてもよいか。

< 委員一同 >

異議なし。

3 募集要項及び選定基準について

< 事務局 >

募集要項の概要を基に事務局から説明。

< 委員長 >

何か質問，意見等あるか。

< 委員 >

考古資料館には現在，何名学芸員が配置されているのか。

< 事務局 >

1名と学芸員に相当する知識と経験を持つ職員を3名配置している。

< 委員 >

入館者数はどのような状況か。

< 事務局 >

年2万5千人前後で減少傾向にある。ただ入館者数は展示内容によって大きく変わってくるので，入館者が離れてるとは考えていない。

< 委員 >

研修センターの稼働率が悪いが、京都市として何か対策を考えているか。

< 事務局 >

研修センターは立地条件がいいものの、施設利用の条件が文化財に関することに限られ、結果的に稼働率が悪い。次期指定管理者とも協議し、工夫しながら稼働率を上げていきたい。

< 委員 >

文化財建造物の保存技術に特化した施設は全国的にみても研修センターのみではないか。

文化財が多い京都だからこそ、このような施設が建てられたと思うが、研修センターが設置された経過についての資料をいただきたい。

< 事務局 >

第2回選定委員会にてお示しする。

< 委員 >

募集要項等における修正等については杉原委員長に一任するのでどうか。

< 委員一同 >

異議なし。

< 委員長 >

意見も十分に出たため、今回はここで終了する。